

久しぶりに投稿します。とても良い話しだなーと思いました。

お父さんのように

優しく、強い強い人間になって、沢山のの人に勇気を与えて下さいねー😊

私も亡くなった親父の腕時計ずっとはめています。

もう動かなくて修理も出来ないんですけど（笑）

少しでも親父に近づけたらなー

と思っています。

きっと天国のお父さんも喜ばれているのではないのでしょうか😊

お母さんと妹さんを守って、優しく強い子にきっとなってくれると思います ✨

「いつもありがとう」作文コンクール

主催：シナネンホールディングスグループ／朝日学生新聞社

後援：文部科学省／朝日新聞社

2010年第4回最優秀賞の作文

「ぼくとお父さんのおべんとうばこ」

お父さんがびょうきでなくなってから三年、ぼくは小学一年生になりました。

お父さんにほうこくがあります。きっとみてくれているとおもうけど、ぼくはお父さんのおべんとうばこをかりました。

ぼくは、きのうのことをおもいだすたびにむねがドキドキします。

ぼくのおべんとうばこと、おはしがあたって、すてきなおとがきこえました。きのうのおべんとうは、とくべつでした。まだ十じだというのに、おべんとうのことばかりかんがえてしまいました。

なぜきのうのおべんとうがとくべつかというと、それはお父さんのおべんとうばこをはじめてつかったからです。お父さんがいなくなって、ぼくはとてもさみしくて、かなしかったです。

お父さんのおしごとは、てんぷらやさんでした。お父さんのあげたてんぷらはせかいーおいしかったです。ぼくがたべにいくと、いつもこっそり、ぼくだけにぼくの大好きなエビのてんぷらをたくさんあげてくれました。そんなとき、ぼくはなんだかぼくだけがとくべつなきがして、とてもうれしかったです。あれからたくさんたべて、空手もがんばっているの、いままでついていたおべんとうばこではたりなくなってきました。

「大きいおべんとうにしてほしい」とぼくがいうと、おかあさんがとだなのおくから、お父さんがいつもしごとのときもっていったおべんとうばこを出してきてくれました。

「ちょっとゆうくんには大きすぎるけど、たべられるかな」といいました。でも、ぼくはお父さんのおべんとうばこをつかわせてもらうことにしました。

そして、あさからまちにまったおべんとうのじかん。ぼくはぜんぶたべることができました。たべたらなんだかお父さんみたいに、つよくてやさしい人になれたきがして、お父さんにあいたくなりました。いまおもいだしてもドキドキするくらいうれしくておいしいとくべつなおべんとうでした。

もし、かみさまにおねがいができるなら、もう一どお父さんと、おかあさんとぼくといもうととみんなであらしたいです。でもお父さんは、いつも空の上からぼくたちをみまもってくれています。

お父さんがいなくて、さみしいけれど、ぼくがかぞくの中でただ一人の男の子だから、お父さんのかわりに、おかあさんといもうとをまもっていきます。お父さんのおべんとうばこでしっかりごはんをたべて、もっともつよくて、やさしい男の子になります。

お父さん、おべんとうばこをかしてくれて、ありがとうございます。